

だいじょうぶ
つながる
こそだて

だっこ通信

第47号 2024. 6月発行



子どもと居る時間

子どもが幼い頃は子どもを中心に生活が回り、親子で居る時間が自然と多くなります。その分、親にとっては自分のために使える時間がなくなり、早く大きくなってほしい、楽になりたい・・・と思うことが多々あります。特に乳幼児期は手がかかり、目が離せないのではなおさらです。子どもに振り回されて過ごすこの時間は、なんかバタバタしているように思えますが・・・。

抱っこされたかったんだ！
気持ちいいなあ～この世界
っていいな～生まれてきて
よかった！



抱っこしてほしいかったの？
ママも忙しいんだけどな・・・
でもちょっとだけ抱っこしよ
うね！

どうしたの？何かあったの？
だいじょうぶだよ～
安心していいよ！



いっしょにいると安心！
大切にしてもらえてうれ
しい！大好き！

子どもはたくさん可愛がられることで、身近な人への愛着が高まり、この世界っていいなあと思うようになります。安心できると心の中に愛情が蓄積され、生きていく上で欠かせないエネルギーになっていきます。

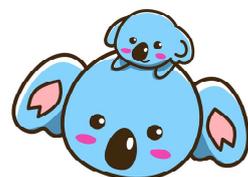


オンフーのつぶやき



幼いころの記憶って覚えていないことが多いよね。だれに遊んでもらったとか、どこに連れて行ってもらったとか・・・でも細かいことは覚えていなくても「愛されていた」「大切にされていた」という感覚は心の奥深くにちゃんと残っていると思う。周りからたくさんの愛をもらった心地よさが自分を大切にできる気持ちになり、人への愛情にもつながっていくんだと思うよ。

とは言っても、一緒に居られる時間は家庭によってさまざま。関わる時間が短いこともあるよね。そんな時は**少しの時間でもいいので積極的に行動に表し、言葉にして伝えていくといいと思う！**短い時間の中でもきっと子どもは感じ取ってくれるんじゃないかな！**自分は大切にされている存在だってことをね！**



発行者：さくら市生涯学習課（担当 鈴木）